

I 調査の概要

【調査の目的】

瀬戸内市がめざす将来（2040年）の姿を、市民の皆様が現在どの程度実感し、どのようなまちの姿を重要視しているかについて把握するとともに、第2次瀬戸内市総合計画の数値目標に対する現状値を把握することを目的として実施した。

【調査対象】

18歳以上の市民 2,000人

【対象者抽出方法】

住民基本台帳による無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

令和2年（2020年）5月

【回収結果】

配布数 ----- 2,000件

有効回収数 -----969件

有効回収率 -----48.5%

◆地区別回収結果（上段：回答件数、下段：構成比%）◆

全体	牛窓地域			長船地域				
	牛窓	鹿忍	長浜	美和	国府	行幸		
969	173	71	58	44	318	30	111	177
100.0	17.9	7.3	6.0	4.5	32.8	3.1	11.5	18.3

	邑久地域								無回答
	邑久	福田	今城	豊原	本庄	笠加	玉津	裳掛	
460	167	66	77	40	37	20	19	34	18
47.5	17.2	6.8	7.9	4.1	3.8	2.1	2.0	3.5	1.9

※「問4.（3）居住地」の回答結果より

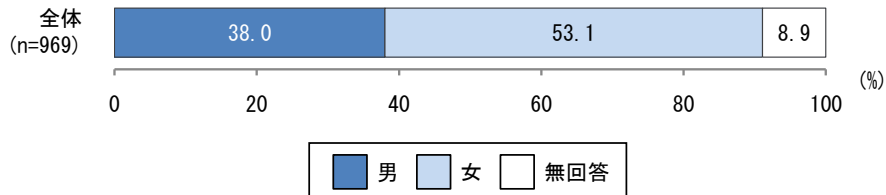
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すnは、比率算出上の基数(標本数)を表している。
- (4) 図表中における年齢層別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、年齢層別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 図表中、クロス集計の項目軸については、長文を省略している場合がある。
- (7) 設問によっては、平成30年度に実施した同調査(「前回調査」と表記)との比較をおこなっている。
- (8) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載している。

II 回答者の属性

1. 性別

性別構成比は、「男性」が 38.0%、「女性」が 53.1%となっている。

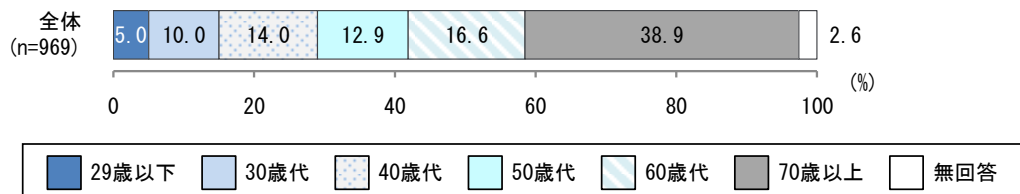


注：調査票では「男」「女」という選択肢表記であるが、本報告書では「男性」「女性」と表記している（以下同様）。

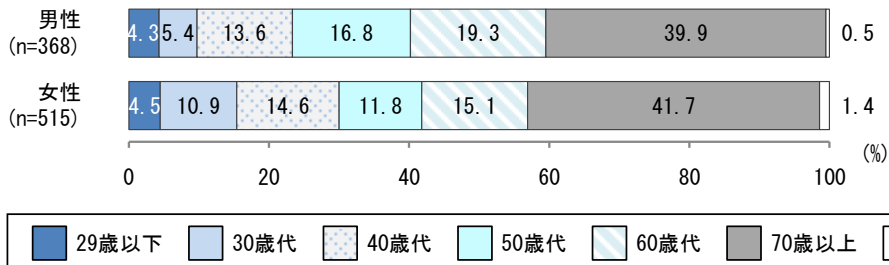
2. 年齢

年齢別構成比は、「70歳以上」が 38.9%と最も高く、次いで「60歳代」（16.6%）、「40歳代」（14.0%）の順となっており、「50歳以上（合計）」で全体の約7割（68.4%）を占めている。

性別では、男性は女性に比べ「50歳代」「60歳代」の割合が高く、女性は「30歳代」の割合が男性を上回っている。



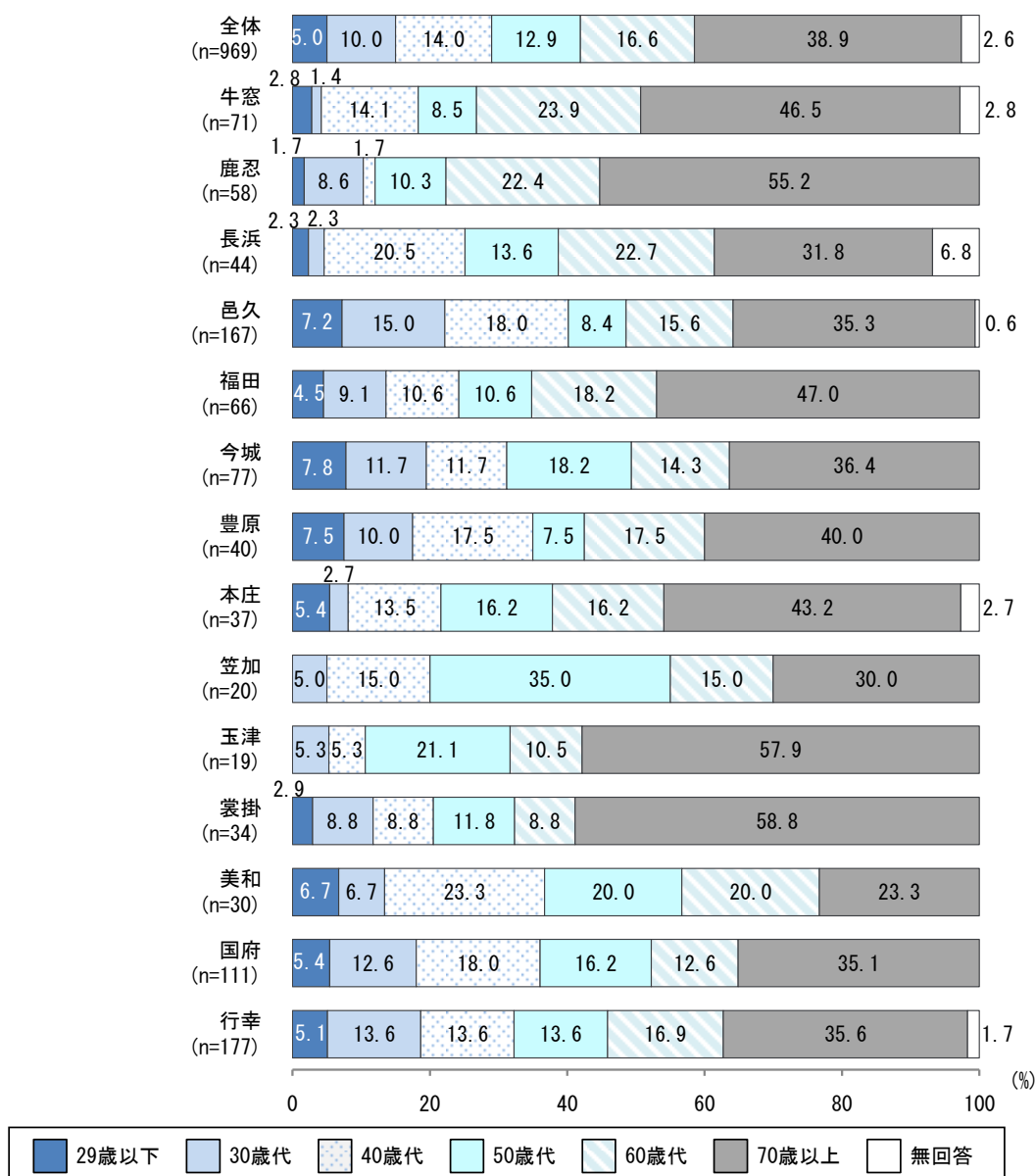
【性別】



さらに、年齢別構成を地域別でみると、邑久、豊原、美和、国府、行幸で40歳代以下の占める割合が他の地域に比べて高くなっている。

一方、鹿忍、玉津、裳掛では「70歳以上」が過半数を占めている。

【地域別（詳細）】

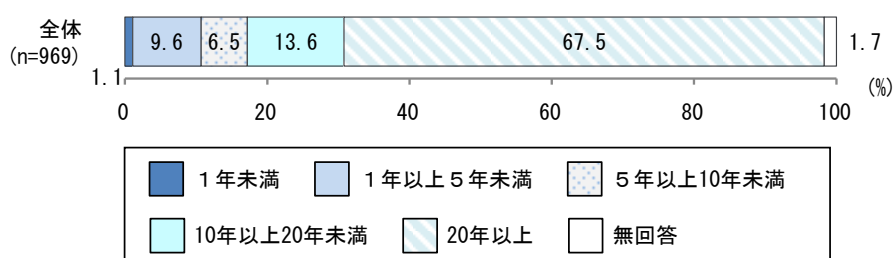


3. 居住年数

居住年数は、「20年以上」が全体の7割近く（67.5%）を占め最も高く、次いで「10年以上20年未満」が13.6%となっている。

性別では、大きな差はみられない。

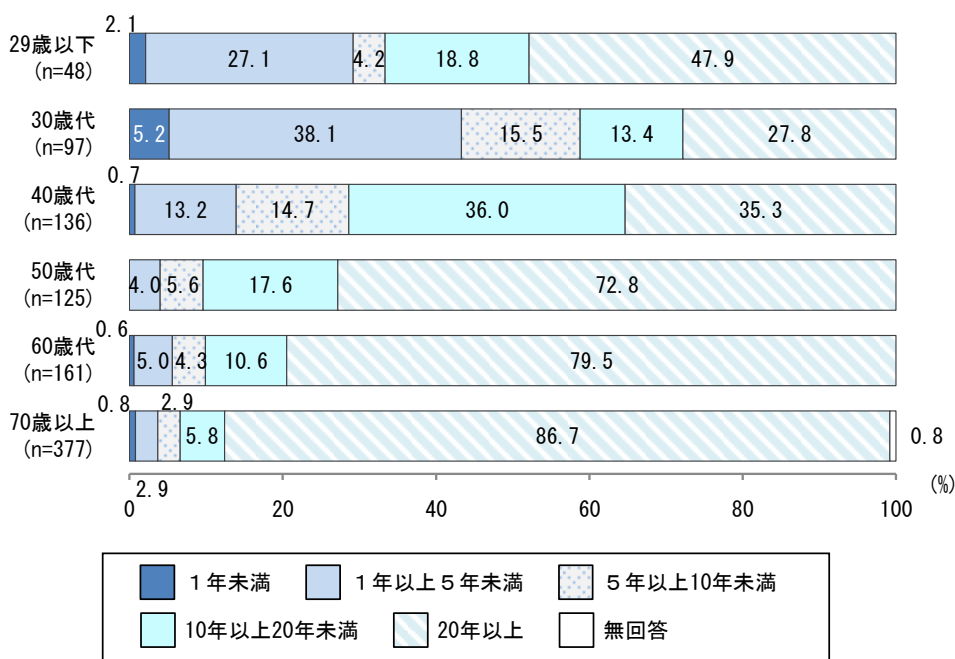
年齢別では、30歳代で「1年以上5年未満」、40歳代で「10年以上20年未満」、70歳以上で「20年以上」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、おおむね年齢が上がるほど「20年以上」の割合が増える傾向にある。



【性別】



【年齢別】

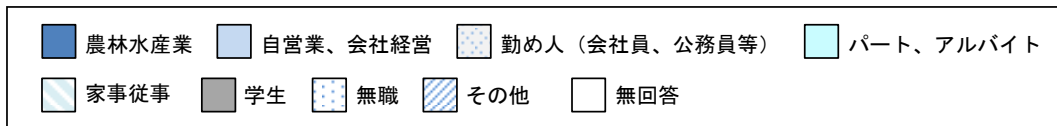
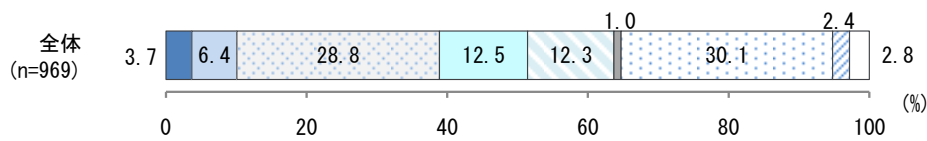


4. 職業

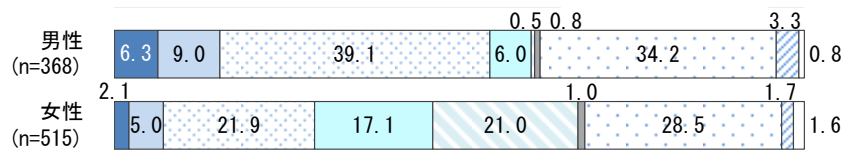
職業は、全体では「無職」が 30.1%と最も高く、次いで「勤め人（会社員、公務員等）」（28.8%）、「パート、アルバイト」（12.5%）、「家事従事」（12.3%）、の順となっている。

性別では、男性は女性に比べて「勤め人（会社員、公務員等）」「無職」、女性は男性に比べて「パート、アルバイト」「家事従事」の割合がそれぞれ高くなっている。

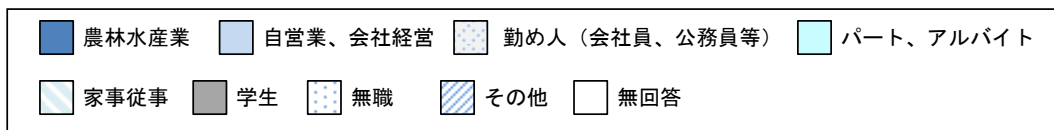
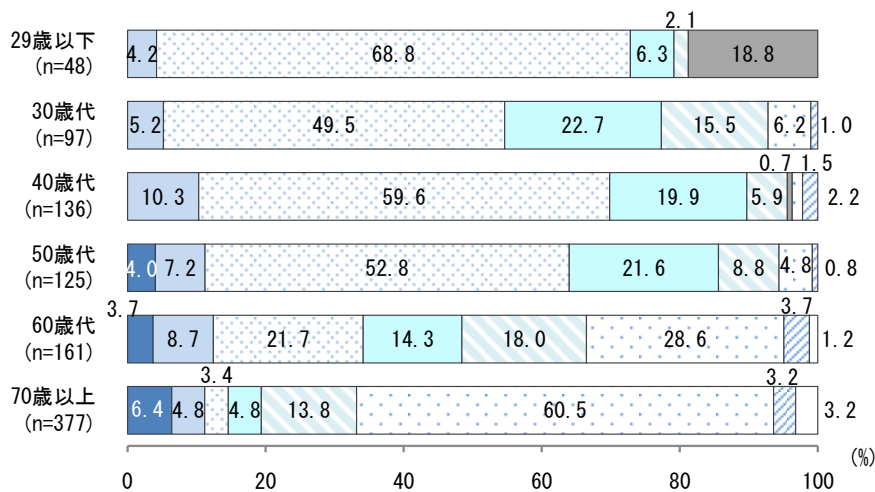
年齢別では、29歳以下で「勤め人（会社員、公務員等）」「学生」、70歳以上で「無職」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【性別】



【年齢別】

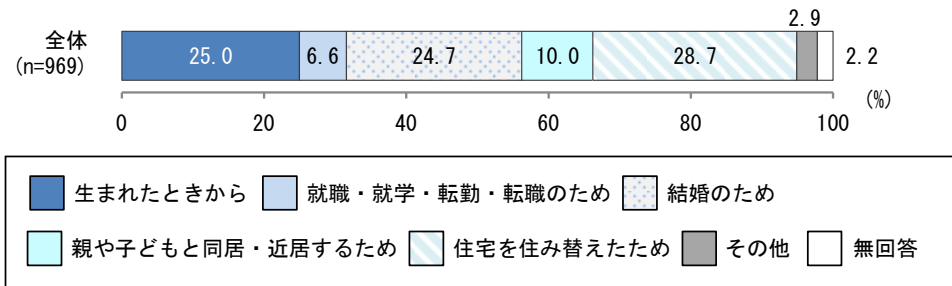


5. 現住所への居住のきっかけ

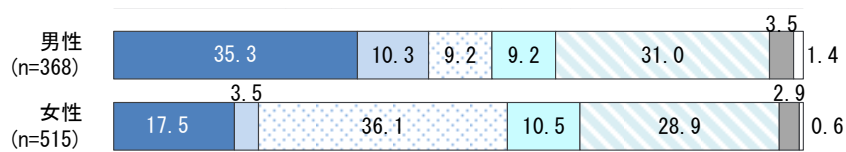
現住所への居住のきっかけについては、全体では「住宅を住み替えたため」が28.7%と最も高く、次いで「生まれたときから」(25.0%)、「結婚のため」が24.7%の順となっている。

性別では、男性で「生まれたときから」、女性で「結婚のため」の割合がそれぞれ高くなっている。

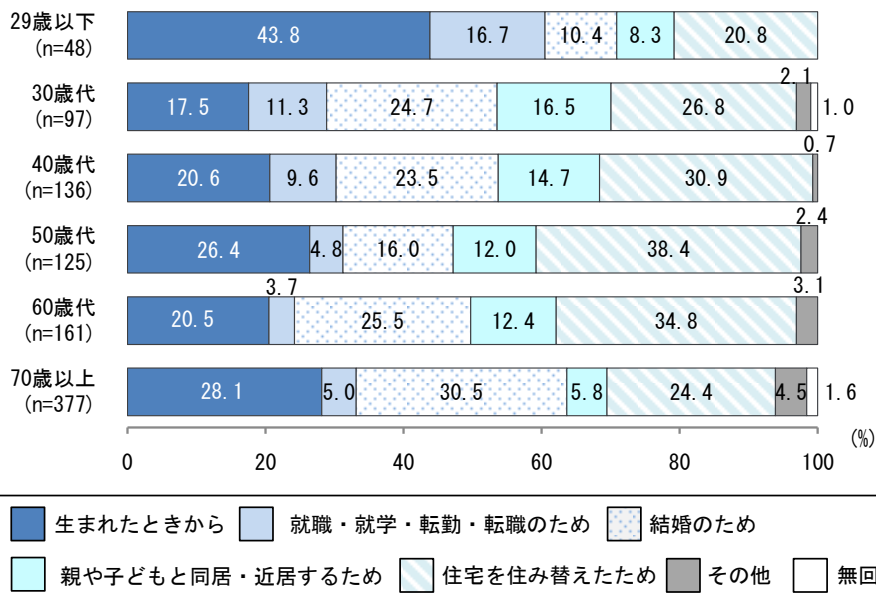
年齢別では、29歳以下で「生まれたときから」「就職・就学・転勤・転職のため」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べ高くなっている。



【性別】

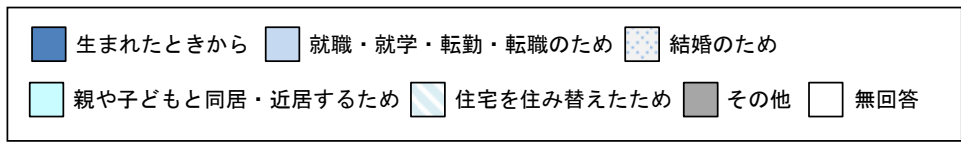
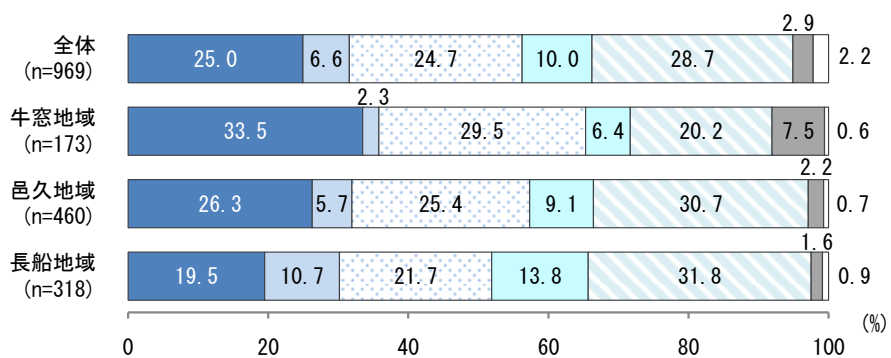


【年齢別】



地域別でみると、牛窓地域で「生まれたときから」、長船地域で「就職・就学・転勤・転職のため」の割合がそれぞれ他の地域に比べて高くなっている。

【地域別】



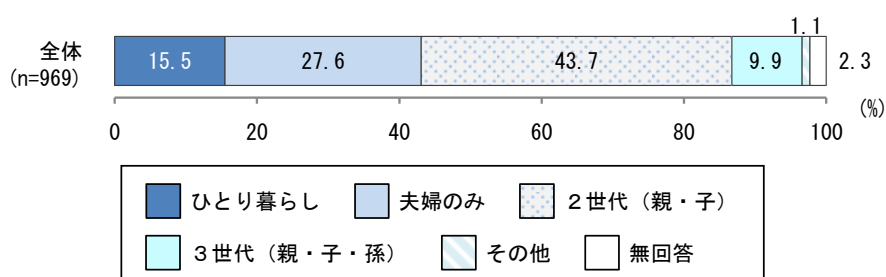
6. 家族構成

(1) 世帯構成

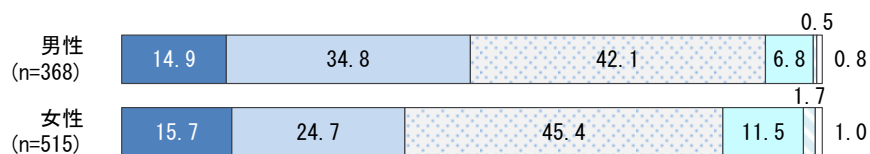
世帯構成については、全体では「2世代（親・子）」が43.7%と最も高く、次いで「夫婦のみ」（27.6%）、「ひとり暮らし」（15.5%）の順となっている。

性別では、男性で「夫婦のみ」、女性で「3世代（親・子・孫）」の割合がそれぞれ高くなっている。

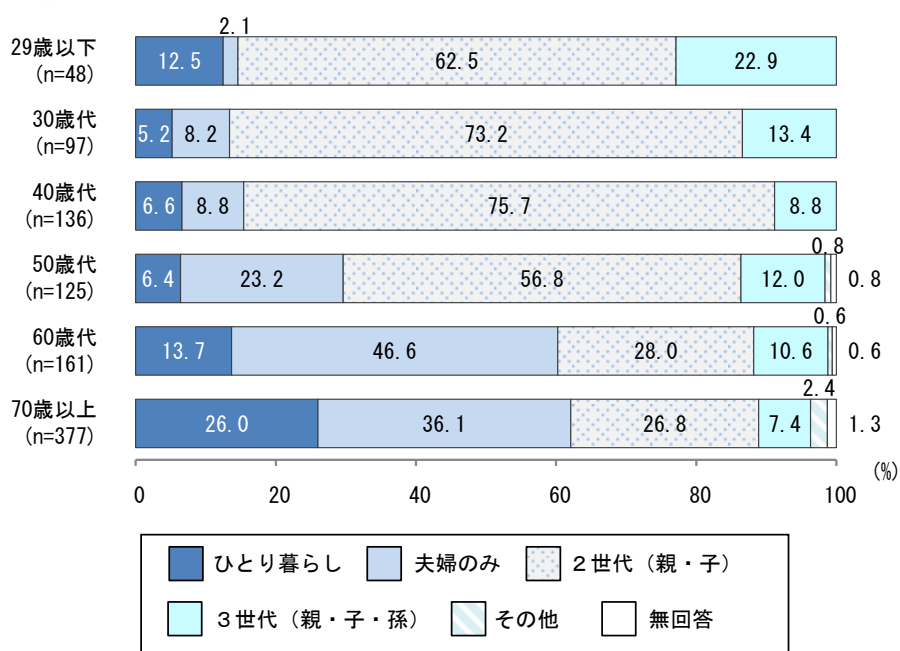
年齢別では、29歳以下で「3世代（親・子・孫）」、30～40歳代で「2世代（親・子）」、60歳代で「夫婦のみ」、70歳以上で「ひとり暮らし」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



【性別】

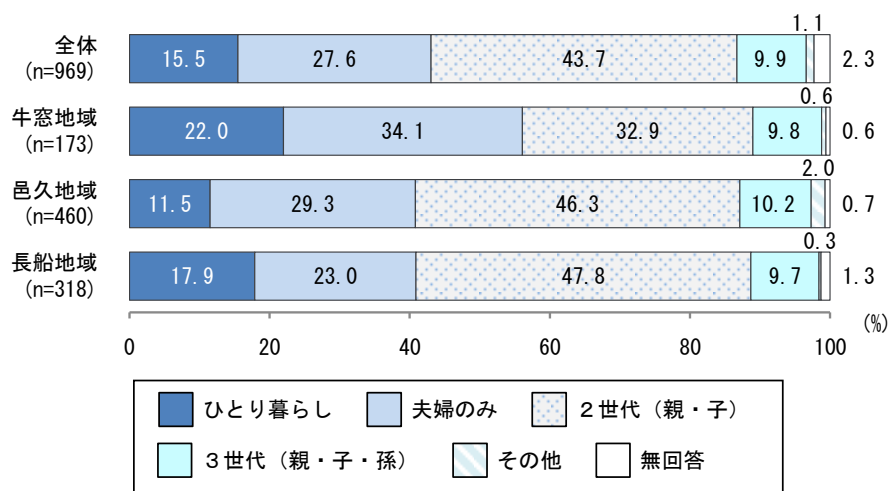


【年齢別】



地域別でみると、牛窓地域で「ひとり暮らし」、「夫婦のみ」の割合が他の地域に比べて高くなっている。

【地域別】

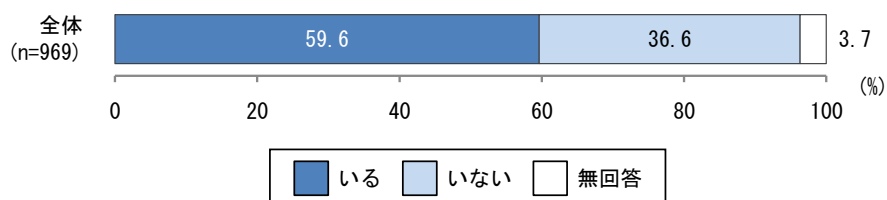


(2) 65才以上の方の同居有無（自身を含む）

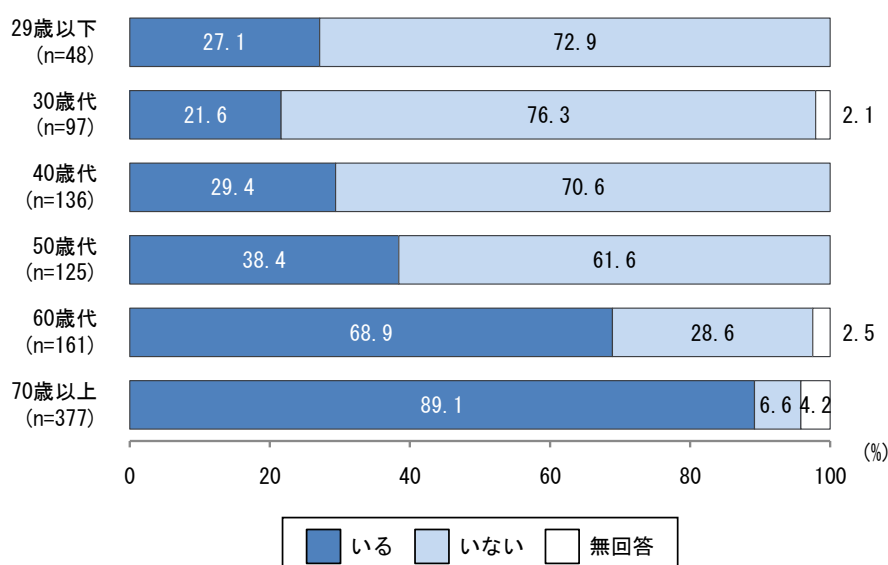
65歳以上の方の同居有無については、全体では「いる」が59.6%、「いない」が36.6%となっている。

年齢別では、自身を含むため60歳以上において「いる」が多くなっており、おおむね年齢が上がるほど「いる」の割合が増える傾向にある。

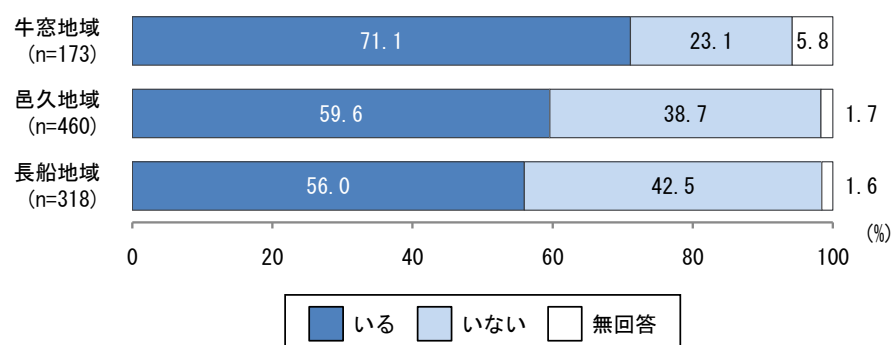
地域別では、牛窓地域で「いる」が約7割を占め、他の地域に比べて高くなっている。



【年齢別】



【地域別】

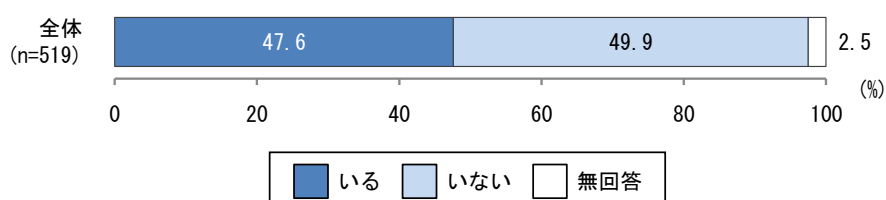


(3) 20歳以下の子どもの同居有無

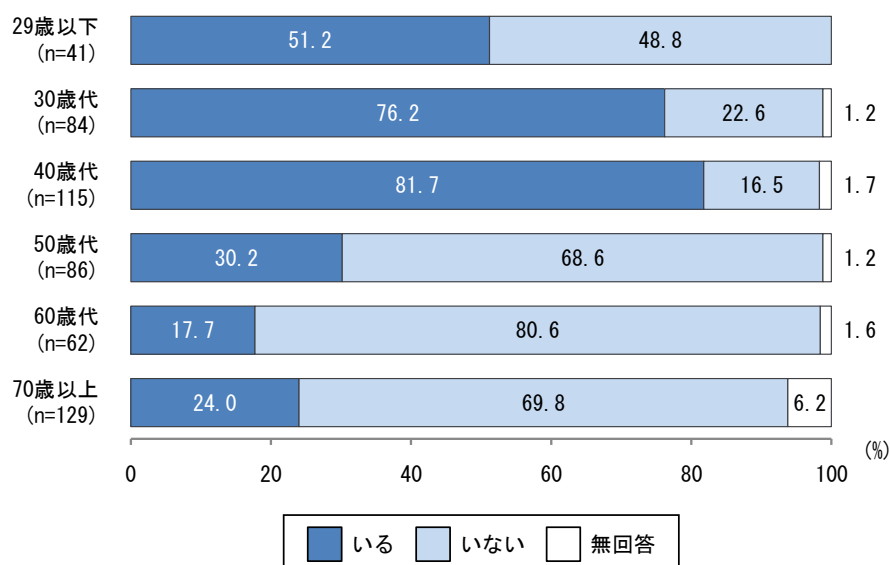
2世代（親・子）または3世代（親・子・孫）の世帯について、20歳以下の子どもの同居有無を尋ねたところ、「いる」が47.6%、「いない」が49.9%となっている。

年齢別では、40歳代で「いる」が8割を占めている。

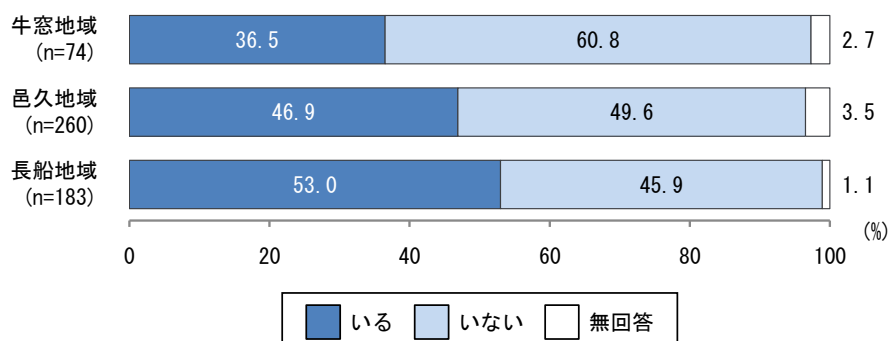
地域別では牛窓地域で「いない」が他の地域に比べて高くなっている。



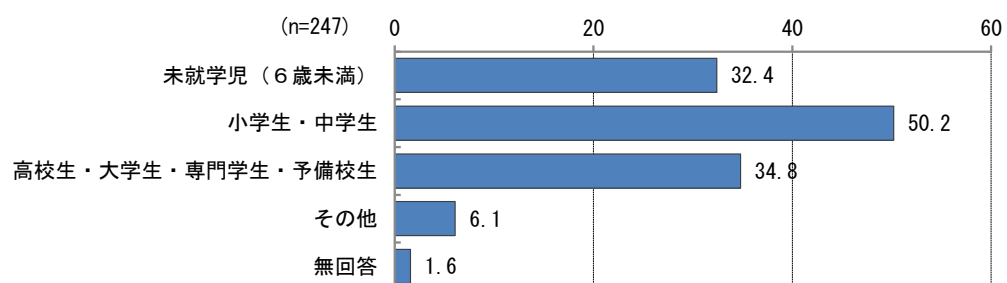
【年齢別】



【地域別】



同居している20歳以下の子どもは、「小学生・中学生」が50.2%と最も高く、次いで「高校生・大学生・専門学校生・予備校生」(34.8%)、「未就学児(6歳未満)」(32.4%)の順となっている。

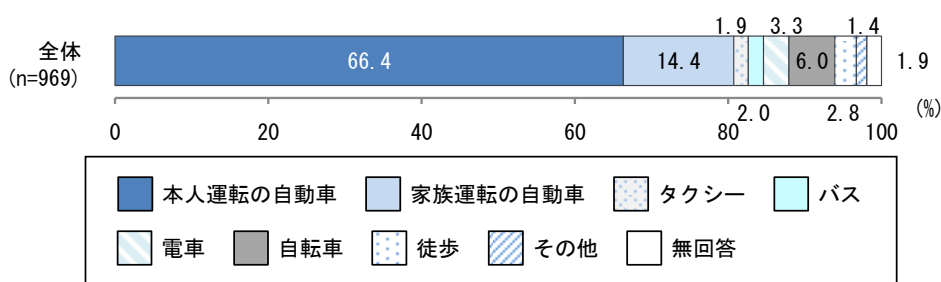


7. 普段の主な移動手段

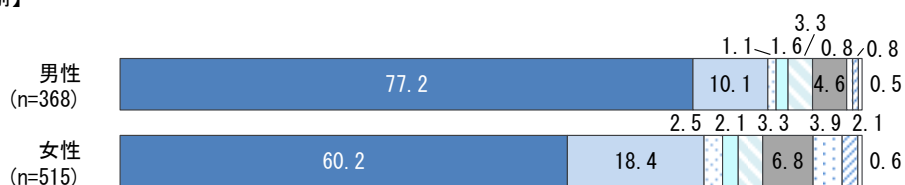
普段の主な移動手段については、全体では「本人運転の自動車」が 66.4%と最も高く突出している。次いで「家族運転の自動車」(14.4%)、「自転車」(6.0%)の順となっている。

性別では、男性で「本人運転の自動車」、女性で「家族運転の自動車」の割合がそれぞれ高くなっている。

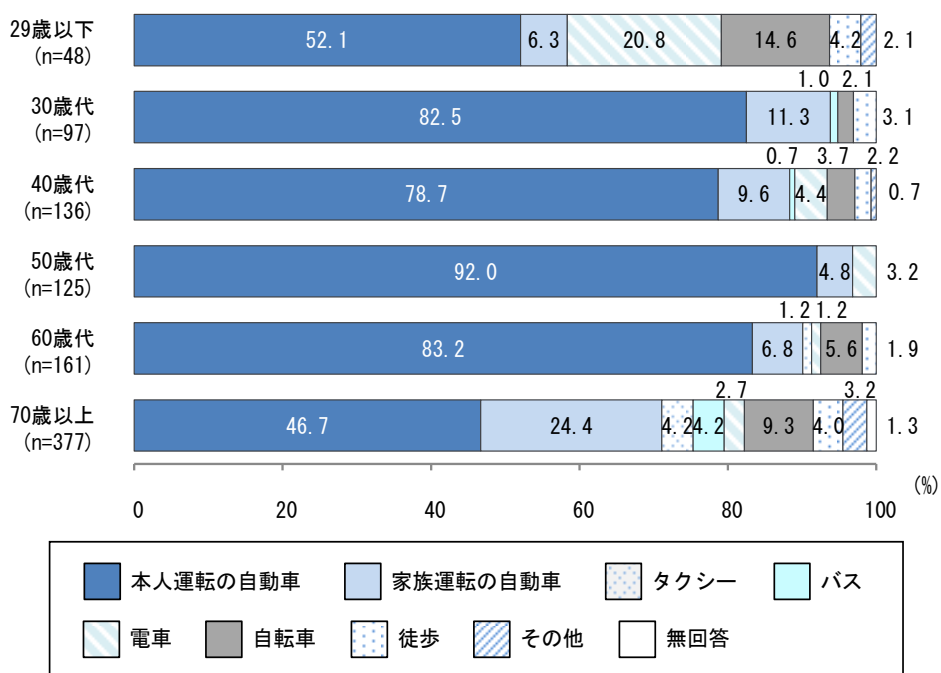
年齢別では、29歳以下で「電車」「自転車」、50歳代で「本人運転の自動車」、70歳以上で「家族運転の自動車」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【性別】



【年齢別】



地域別でみると、鹿忍、裳掛で「家族運転の自動車」、笠加で「本人運転の自動車」の割合がそれぞれ高くなっている。

【地域別（詳細）】

